



三井高利夫妻像

口絵 三井高利夫妻像

絹本著色

縦 二四・六 センチメートル

横 三四・九 センチメートル

三井高利は、元和八年（一六二二）伊勢松坂に高俊の四男として生まれた。長兄俊次の店越後屋を手伝い、二八歳で、母珠法を奉養するため松坂に帰郷し、松坂の豪商中川氏の長女かね（法名 壽讚）を娶った。かねとの間には、十男五女をもうけた。晩年は京都に住み元禄七年（一六九四）五月六日、七三歳で没した。法名松樹院長誉宗壽居士。かねは二年後の元禄九年（一六九六）十月十三日享年六二歳で高利の後を追っている。法名栄昌院長空壽讚大姉。この夫妻像は北三井家に伝わったもので、香に燻されたためか、絹は著しく変色しているものの、二重の箱に収められ大切に保管されている。詳細については本号の「新出の三井高利夫妻像について」を参照。

